

# cloud-all クラウドー 連載 20th

## コミュニケーションプラットフォーム

# 『Microsoft Teams』の最適な提案プランとは

新型コロナウイルスの影響により、テレワークを実践する企業は一気に増えたが、準備不足でテレワークを始めた結果、さまざまな課題が浮き彫りになっている。特に「簡単にオンライン会議を開催したい」「安全にファイルを共有したい」というニーズは高い。そうしたニーズに対応できるのがMicrosoft Teams (以下、Teams)だ。なぜ数あるツールの中でTeamsが支持されるのか。その提案時のポイントやプランの選び方について解説しよう。

### Teamsが選ばれる背景

激化するコミュニケーションツールの市場において、Teamsは後発にもかかわらず着実にユーザー数を増やしている。なぜTeamsは、これほど支持されているのだろうか。

Teams最大の特徴は、多くの機能が網羅されている“オールインワン”のツールであることだ。相手を選んでボタンをクリックするだけでオンライン会議が開催可能で、ドラッグ&ドロップでファイル共有ができるなどテレワークにおけるさまざまな課題もTeamsがあれば一気に解決する。一方、競合する製品やサービスでは、オンライン会議はZoom、ファイル共有にはDropBoxなど機能ごとに異なるツールを使用するケースが多い。

MicrosoftはTeamsを『コラボレーションハブ』として位置付け、すべての作業の起点となるよう設計している。コミュニケーションのベースになるチャット、Plannerによるスケジュールやタスク管理のほか、Excel



画面上部にある「+」(タブ)をクリックすると連携するアプリが表示される。これを組み合わせることでTeamsにタスク管理などの機能を追加することができる。

やPowerPointといった他のOffice製品のファイルをクリックすればTeamsのウィンドウ内で編集できる。他にもMicrosoftやサードパーティからは、Teams内で利用できるアプリが多数提供されている。最初はオンライン会議のためにTeamsを導入したが、「便利そうなのでPower BIも使うことにした」「パッケージ版のOfficeをMicrosoft 365に切り替えた」など、Teamsをきっかけに他の商談へと発展する可能性は十分にある。

### 無料版と有償版の違い

Teamsには、機能が限定されている無料版とMicrosoft 365のサブスクリプションに含まれている有償版がある。無料で使えるならそちらを選びがちだが、当然できることに違いがある。無料版と有償版のもっとも大きな違いは、ファイル共有で使用するストレージの容量だ。有償版はユーザー1人あたり1TBだが、無料版はユーザー1人あたり2GBしかない。また、オンライン会議のレ

|                                               | Microsoft Teams<br>無料版  | Remote Work<br>Starter Plan | Microsoft 365<br>Business Basic |
|-----------------------------------------------|-------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| ユーザー数の制限                                      | 50万ユーザー                 | 300ユーザー                     | 300ユーザー                         |
| チャット／音声／ビデオ通話                                 | ○                       | ○                           | ○                               |
| Teamsチャットでのファイル共有<br>(OneDriveのストレージ容量が適用される) | 2 GBのクラウド<br>ストレージ／ユーザー | 1 TBのクラウド<br>ストレージ／ユーザー     | 1 TBのクラウド<br>ストレージ／ユーザー         |
| Teamsチャンネルでのファイル共有                            | 10GB／組織                 | 1 TB／組織＋10GB<br>購入したライセンス   | 1 TB／組織＋10GB<br>購入したライセンス       |
| 会議のレコーディング                                    | ×                       | ×※                          | ○                               |
| 最大300ユーザーでのビデオ会議                              | ○                       | ○                           | ○                               |
| Office ドキュメントの共同編集                            | ○                       | ○                           | ○                               |

※追加機能として後日提供される可能性があります

コーディング(録画)ができないことや、セキュリティ機能などに制限がある。

ビジネスでの利用であれば、ストレージの容量やセキュリティ機能は重視すべきポイントである。無料版はTeamsの使用感を確認するための試験導入と位置付け、まずは少人数で無料版のTeamsを導入して顧客に使ってもらって結果をヒアリングし、それぞれの顧客の用途に応じたMicrosoft 365のサブスクリプションを契約してもらうことを推奨する。

E5が必要だ。E5には、Teamsと電話システムとの連携、強力なセキュリティやコンプライアンス機能などが含まれている。

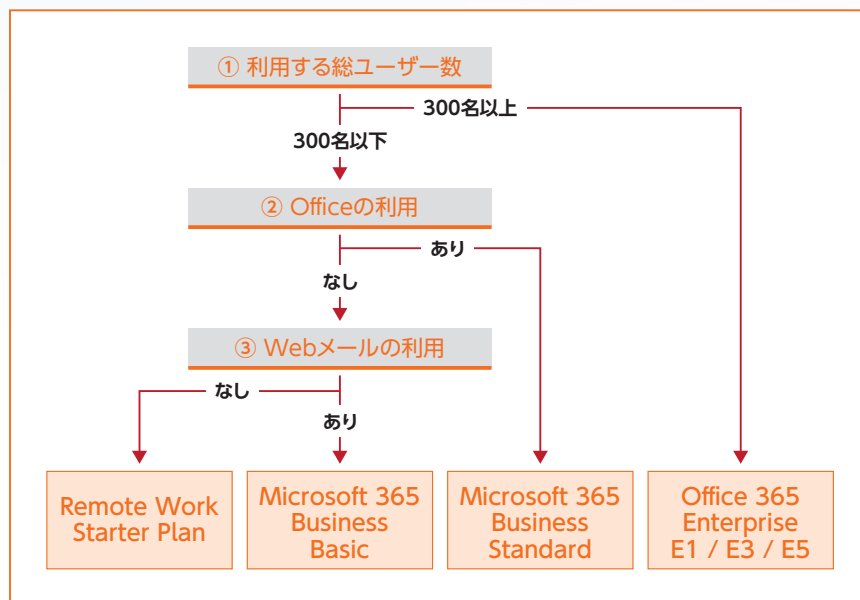
300名以下でSaaSのOffice製品を利用するのであればMicrosoft 365 Business Standard、既存のパッケージ版のOffice製品を使いつづけるものの、メールやスケジュール管理にExchange Onlineを利用したいといった場合には、Microsoft 365 Business Basicが最適だ。

また、「とにかくオンライン会議をすぐに開催できるようになりたい」というニーズに対しては、日本限定で新たに提供されるようになった「Remote Work Starter Plan」という選択肢もある。ただし、こちらのエディションには、OfficeアプリケーションやExchange Onlineは含まれていない。多彩な機能をもつTeamsだからこそ、ニーズに合わせた提案シナリオが重要になる。そこで次からはそれぞれのシナリオについて紹介しよう。

## 顧客のニーズに沿ったエディションの選択

Microsoft 365のサブスクリプションは、ビジネス規模や用途によって、いくつかのエディションに分かれている。重要なことは、顧客のニーズを正しく把握し、最適なエディションを提案することにある。

ユーザーが300名を超える大企業であれば、Office 365 Enterpriseが選択肢となるが、SaaSのOffice製品を利用するのであれば、E3か上位エディションとなる



## シナリオ 01 ファイルを安全に共有したい

テレワークでは、「会社のファイルサーバにアクセスできない」というのが最初の課題になる。慌ててテレワークを始めた準備不足企業では、共有したいファイルをメールに添付するなどの運用を行っていることも多い。しかし、Teamsを使えば、ドラッグ&ドロップで、ファイルを簡単に共有できる。

ファイル共有はTeamsの基本的な機能であるため無料版でも利用可能なので、利用ユーザー数やその他の用途に合わせて好きなエディションを選択できる。ただし、ビジネス用途で安全にファイルを共有したいのであれば、有償版のTeamsを提案すべきだ。その理由としては、有償版のチーム内チャンネルで共有したファイルは、SharePoint Onlineのドキュメントライブラリで管理される



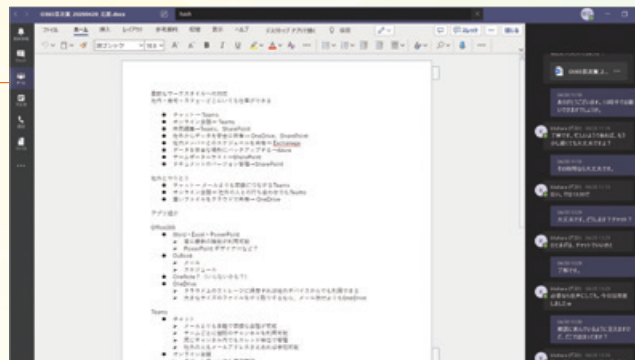
テレワーク導入時に困ることのひとつ、大容量データのファイル共有もTeamsを使えば手軽に行うことができる。

が、SharePoint Onlineで設定された権限とファイルセキュリティオプションは、自動的にTeamsにも反映されるため、とても安全性が高いためだ。なお、個別チャットで共有するファイルは、各ユーザーのOneDrive for Businessに保存されるため、有償版であれば容量を追加することができる。

## シナリオ 02 オンライン会議を開催したい

全国から幹部社員が集まる会議など遠方からの移動や大勢が集まる会議の開催が延期・中止になるケースが増え、オンライン会議のニーズも高まっている。Teamsのオンライン会議には、「今すぐ会議」と「会議をスケジュール」の2つの開始方法がある。いずれも招待したいメンバーを選択し、すぐに会議を開催するか、会議をスケジュールするだけで簡単に開催できる。社外メンバーもメールアドレスを入力するだけで招待できるので、「オンラインで商談したい」といったニーズにも対応できる。

会議中の画面共有を使って「PowerPointのスライドショーを使ったプレゼンテーション」、チャット画面を表示して「会議中に質問事項をチャットに記述する」といった使い方の他、会議中に共有ファイルを追加したり、共同編集機能で会議しながらOneNoteで議事録と一緒に記述といったことも可能。特に会議をしながら他の参加者と一緒にOfficeファイルの共同編集ができるのは、Teamsにしかできない便利な使い方だ。



一つのOfficeファイルを複数人で同時に編集ができる。手分けして一つの書類を作成する場合の待ち時間が無くなり効率もアップ!

また、参加者の背景を変更したり、カメラをOFFにして音声だけで参加もできるので、自宅からの参加も安心だ。

Teamsの会議をレコーディングすることもできるが、レコーディング機能は、無料版およびRemote Work Starter Planではサポートされていない。会議を録画して共有したいといった用途に対応するためには、Microsoft 365 Business Basic以上のエディションを契約する必要がある。

|                 | Microsoft 365 Business Basic | Microsoft 365 Business Standard | Microsoft 365 Business Premium |
|-----------------|------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|
| ユーザー／月相当(年間契約)  | 540円                         | 1360円                           | 2180円                          |
| 利用人数            | 300名まで                       | 300名まで                          | 300名まで                         |
| Office アプリケーション | × (Office オンラインは利用可)         | ○                               | ○                              |
| メール、ストレージ、Web会議 | ○                            | ○                               | ○                              |
| Windows 10      | ×                            | ×                               | ○ (WVD利用可)                     |
| EMS             | ×                            | ×                               | ○ (Intune + Azure AD)          |

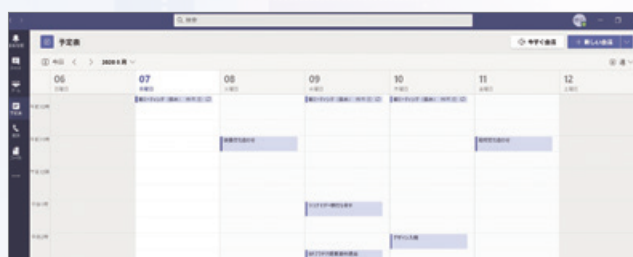
## シナリオ 03 スケジューラー／メールを統合したい

会議の予定をスケジュールしていると、Outlookの予定をTeams内で確認したいという要望が寄せられることが多い。そこでエンドユーザーに提案したいのが、スケジューラーとメールの統合だ。メールやスケジュール管理にExchange OnlineとOutlookを利用すれば、Teamsの画面左側にある「予定表」を選択するだけで、管理されている予定を自動的に取り込むことができる。また、スケジュールアシスタントを使えば、会議に招待したいメンバー全員の予定を確認し、全員が都合の良いタイミングをAIが提案してくれるようになる。同様にOutlook側にも新しいアドインがインストールされるため、Outlookの予定表には「新しいTeams会議」ボタンが自動的に追加されるほか、メール画面にも「チームと共有」ボタンが追加され、メールをTeamsのチームに共有できるようになっている。

なお、Teamsのチャンネルには、それぞれメールアドレスが割り振られているため、チャンネル横にある「…」をクリックしてメールアドレス

を取得すれば、特定のチャンネル宛にメールを送ることもできる。

これらの機能は、Exchange OnlineとOutlookを利用していることが前提であるため、Microsoft 365 Business Basic以上のエディションを契約する必要がある。また、SaaS版Outlookのアプリケーションを利用したい場合には、Microsoft 365 Business Standard以上の契約が必要だ。



Teamsの予定表。Exchange Online やOutlookも同時に使うことで、メンバーのスケジュールを確認して、自動で空き時間に会議を入れるなどのスケジュールアシスタント機能を使うことができる。

## シナリオ 04 営業活動にオンラインセミナーを取り入れたい

訪問などのリアルな営業活動が制限されるなか「自社の製品をアピールしたい」「新たなサービスを紹介したい」といったニーズが高まっている。Teamsにはライブイベント機能も搭載されているため、訪問営業やセミナーに代わって、オンラインセミナーなどのイベントを開催することができる。

ただし、ライブイベント機能を利用するには、Office 365 E1/E3/E5 いずれかのライセンスが必要になる。イベントに関係するユーザーだけ契約すればライブイベントを開催できるので、その他のユーザーは業務の用途に合わせたエディションを契約できる。現状のライセンスでライブイベントが開催できるかどうかを知りたい場合には、[予定表] > [+新しい会議]と選択し、[ライブイベント]が選択できれば開催可能であることが確認できる。

Office 365 E1/E3/E5のどちらのエディションを選択するかは、SaaSのOffice製品利用の有

無、セキュリティ機能やコンプライアンス機能をどこまで利用したいのかで決まるが、ライブイベント開催のために一部のユーザーだけアップグレードするという利用方法であれば、E1かE3で十分だろう。しかし、ライブイベントの配信を機に新しいビジネスを計画しているのであれば、セキュリティやコンプライアンスについても、根本的に見直す可能性があるため、EMSが含まれるMicrosoft E3もしくは E5の提案を検討してみてもはどうだろうか。



Teamsの画面の右上にある「新しい会議」を選択した際に「ライブイベント」と表示されたら開催可能なプランとなる。

### 顧客のニーズをヒアリングして最適なプランを提案しよう

顧客のさまざまなニーズに対応できることが評価され、Teamsは着実にシェアを拡大している。また、Microsoftが提供するアプリケーションであること

も、信頼される理由といえるだろう。

月額料金を抑えた「Remote Work Starter Plan」の登場により、コストを抑えたい顧客の要望に対応できるようになった。しかし、費用面だけで選んだ結果、導入後に希望していた使い方ができない、という話になっては信頼を損ねることにな

りかねない。どのくらいの人数で、どのような使い方をしたいのかなどを導入前にヒアリングしなければ、顧客が本当に求めているものを把握することはできない。それぞれのニーズに応じた最適なプランと使い方を含めた提案をすることで、ビジネスチャンスをつかむことができるだろう。